

診療情報および検体（試料）を利用した臨床研究について

虎の門病院 呼吸器センター内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分やご家族の診療情報・検体（試料）を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

20歳以上の成人男女で、2008年1月1日から2017年12月31日まで当院で悪性胸膜中皮腫と診断された方。

【研究課題名】

悪性胸膜中皮腫の病理診断の向上への検討

【研究の目的・背景】

《目的》

本研究は、BRCA1-associated protein (BAP1)や claudin4 などのタンパク質の解析が、悪性胸膜中皮腫の診断の向上につながるかを検討します。

《研究に至る背景》

悪性中皮腫は肺の表面を覆う胸膜から発生する悪性腫瘍です。悪性中皮腫のほとんどにアスベストが関与しているとされています。日本では、1970年から80年代からアスベストが使われていて、曝露から悪性中皮腫発症までの潜伏期間は約40年であることから、患者さんの数は今後増加すると予測されています。中皮腫は診断が難しいことが知られており、以前の報告では胸膜悪性中皮腫と診断された方を再検討したところ、男性の約10%、女性の約20%で悪性中皮腫ではなかったという報告もあります。

【研究のために診療情報・検体（試料）を解析研究する期間】

2018年9月4日 ～ 2019年5月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究

します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院 呼吸器センター内科 部長 岸 一馬 のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報・検体（試料）】

診療情報： 年齢・性別・石綿の暴露歴などの臨床的情報、治療経過など

検体（試料）： 病理組織

【研究代表者】

虎の門病院 呼吸器センター内科 岸 一馬

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 呼吸器センター内科 岸 一馬

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報・検体（試料）が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年11月30日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 呼吸器内科 岸 一馬

電話 03-3588-1111(代表)